

野菜畑作生産情報 第7号 (要約版)

平成28年10月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎台風第10号等による被害への対応を徹底しましょう！
- ◎適期収穫で良品生産に努めましょう！
- ◎小麦の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！

○台風第10号等による被害（ながいも、ごぼう等）への対応

- 1 根部の腐敗が見られるほ場では、被害残さを速やかにほ場から搬出する。
- 2 ほ場の浸水により、根部の腐敗が懸念されるほ場では、春掘りせず、年内に収穫する。
- 3 ながいもの種子（子いも）生産ほ場において、ツル切れのため次年度の種子不足が予想される場合、次年度は切いもで対応することとし、切いもに必要な成いもを確保する。なお、種子として必要な成いもは10a当たり400～600kg程度である。

○ながいも

- 1 いもの肥大は平年並から平年を下回っている。
- 2 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- 3 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- 4 茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

○秋冬だいこん

- 1 生育は平年を下回っている。
- 2 ほ場毎の試し掘りで肥大状況を確認し、適期に収穫する。

○大豆

- 1 成熟期は平年並みから平年より早く、一部ほ場では収穫適期に達している。
- 2 収穫適期は、茎水分50%以下、子実水分20%以下となった時期である。収穫時期が早すぎたり遅すぎたりすると、汚粒や被害粒が増加して収量や品質が低下するので、ほ場毎に成熟期を確認し、適期に収穫する。

○小麦

- 1 は種後の生育は、概ね良好である。
- 2 明きよの設置など排水対策を徹底して湿害を防止する。
- 3 雪腐病の防除として、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

○冬期間のハウス栽培

- 1 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- 2 二重被覆などにより保温効率を高め、細かな温度管理で燃料の節約に努める。
- 3 ハウス内の温度は、循環ファン等を設置して施設内の温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど燃料の節約に努める。

施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル

(http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/nenyu_koutou/n_energy/pdf/manual.pdf)

施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート

(http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/nenyu_koutou/n_energy/pdf/check.pdf)

◎ハウス用ビニールやマルチなどの使用済プラスチック類は、市町村適正処理協議会や農協の回収システムなどを利用し、適正に処理しましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
- 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
- 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)



報道機関用提供資料（連絡先）	
担当課	農産園芸課
担当者	野菜・畑作物振興グループ 井澤 主査
電話番号	直通 017-734-9481 内線 5079
報道監	農林水産部 津島 農商工連携推進監（次長） 内線 4966